



兵庫の建築
Architecture of
HYOGO

神戸商工貿易センタービル 第30回BELCA賞 ロングライフ部門（2020年）

竣工年 1969年

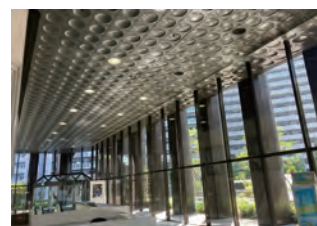
所在地 兵庫県神戸市中央区浜辺通

神戸商工貿易センタービルは、神戸市中央区のウォーターフロント地区に位置する高層ビルで、神戸を代表するランドマークのひとつです。1969年に竣工した地上31階、高さ約107メートルの超高層建築であり、西日本で初めての超高層ビルとして、当時の建築技術と都市設計の象徴的存在となりました。外周には「ベアリングウォール」と呼ばれる短スパンラーメン構造、内部コア周囲にはブレース付ラーメンを持つダブルチューブ構造を採用し、軽量化と剛性を両立。阪神・淡路大震災では、震度6以上の直下型地震に耐え、その耐震性が証明された。構造体に大きな損傷はなく、震災で倒壊した市庁舎の仮庁舎や医薬品集配センターとして、震災後の市民の相談や手続き対応など、神戸の復興の拠点としての大役を担いました。また、竣工から50年以上にわたり、段階的かつ計画的なリニューアル・改修が行われています。外装の修繕と塗装、ESCO事業による省エネルギー改修、空調・熱源設備の更新、共用

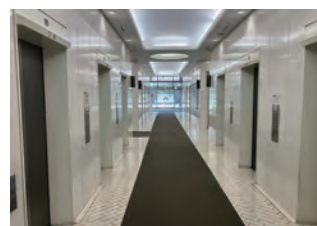
部分の更新と防災設備、BCP（事業継続計画）・災害対策、など 竣工50周年の2019年には再生事業計画が策定され、竣工60年、70年、80年に向けた短期～長期の工程を明示し、「100年ビル」を目指す戦略的な計画が進行中です。

外観は、垂直性を強調した整然としたファサードで構成され、白を基調としたパネルと連続する窓のリズムが、安定感と現代性を感じさせます。商工業・貿易関係のオフィス集積を想定しており、機能的かつ柔軟なオフィスレイアウトが可能な平面構成となっています。また、低層部には吹き抜けを含む広い共用空間が設けられており、来訪者の交流やイベント開催にも対応する設計がなされています。周辺環境との調和も重視されており、ポートアイランドやハーバーランドといった港湾施設との視覚的・機能的なつながりを意識した配置となっています。

文・写真：野口 直人（神戸支部）



エントランス



エレベーターホール



目次	P.1 兵庫の建築・神戸商工貿易センタービル
	P.2-3 第67回建築士会全国大会「おおさか大会」報告
	P.4 兵庫県建築士会 提携弁護士相談のご案内

メール配信と名簿のご案内
「集 tsudo」誌面に掲載できない情報などを「兵庫県建築士会メールニュース」として配信しています。受信希望の方はホームページからメール配信登録をください。またホームページの名簿への掲載を希望される方は会員建築士名簿のページからお手続きください。



18日開催 全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会レポート

田村 嘉朗（まちづくり委員会）

第13回全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会が大阪市中央公会堂で午後開催された。出席者は200名を超え、兵庫士会からは賛同団体として7名が、地域ネットワーク団体である兵庫ヘリテージ機構（H²O）からは11名が参加した。「中之島と船場のまち歩き」で「大大阪」を体感したのち、協議会副委員長中西氏から開会挨拶があり、①人材育成の現状、活動ネットワーク、広域連携について各ブロック等から報告を受け（近畿は和歌山士会、田邊氏）、②能登半島地震の報告を静岡・新潟・石川の方々から受け、③養成講座等実施状況のアンケート結果報告、④歴史的地域資産チェックシートについて夫々報告を受けた。また、中之島ラベントラルにて大交流会が開催され、更なるネットワークの強化に取り組んだ。



第13回 HMN 協議会総会風景

19日開催 木のまちづくりセッション

土佐 道子（まちづくり委員会）

テーマ：次世代の木の建築を支えるための『人』『木』『森』について、まず、京都府建築士会 高橋勝氏より、大工技術を学ぶ学生と作り上げた京北森林組合倉庫など、木の建築を通して『人』との繋がりについて伺った。次に奈良県建築士会 吉田敦彦氏より、自社の製材会社が持つ『木』に係る広域ネットワークにより実現した仮設住宅用資材供給の様子や地域の生業保全の重要性について、NPO 法人サウンドウッズ 安田哲也氏より、京丹波町での森の100年サイクルの実践事例から、木のまちづくりと『森』の持続が一体となった仕組みづくりについて伺った。

活用、供給、そして次世代への継承という木の循環に携わる専門家のお話の後には意見交換で会場が白熱し、最後に部会長 三井清典氏よりグローバルな視野を持ったローカルの実践こそが最先端の取組であることが示された。

19日開催 歴史まちづくりセッション

常峰 博文（まちづくり委員会）

全国ヘリテージマネージャーネットワーク（以下HMN）協議会委員長：後藤氏、部会長：塩見氏の挨拶から始まり大阪府建築士会HMN委員長：信藤氏の趣旨説明の後、立命館大学非常勤講師の尾谷雅彦氏コーディネートのもと以下3例の事例発表があった。

1. 「大大阪、船場のまちと建築」について
大阪府登録文化財所有者の会・事務局長：青山修司氏より
 2. 「地産地消の歴史的建造物修理」について
立命館大学非常勤講師：尾谷雅彦氏より
 3. 和泉国を彩る歴史的景観～「環濠都市 境」「貝塚市内町」「日根荘大木の農村風景」～について
大阪府教育長文化財保護課：萩原安寿氏より
- 休憩を挟み、会場からの質疑等に基づく質疑応答、意見交換が行われた。最後に、全国HMN協議会運営委員長：中西重裕氏の総評と挨拶でセッションが終了した。

19日開催 防災まちづくりセッション

渡邊 一洋（まちづくり委員会）

「まちづくり活動での普段付き合い」を重点項目とし、大阪大会では「物理的な備えに加え、有事への予知や予防として生かせる「気持ちの備え」も検討し、災害教育や危機管理の啓発に役立て、専門家を交えてのセッションが行われた。

- ①8月10日からの熊本県の洪水被害報告が熊本士会の廣田氏よりあった。
- ②香川大学の野本氏がハザードマップを横展開してまちづくりに活かす。また「四国防災八十八話」マップを防災啓発活動に活かす。
- ③和歌山士会の木造仮設住宅供給体制。小中学校の防災教育と地域の防災行事について。
- ④愛媛士会で九州産業大学の近藤氏から、「建築士による防災講座」1/10の木造住宅2階建て軸組模型で、手動で加振可能、補強がなければ倒壊するといった木造住宅の耐震化の重要性が伝えている。

18日開催 まちづくり賞発表＆選考会レポート

岸野 裕児（まちづくり委員会）

4月から始まった募集の中、17団体がエントリーした。

9月18日、グランキューブ大阪にて「第13回まちづくり賞発表会＆公開選考会」で、それぞれのまちづくり活動等の発表をおこなった。「玉川学園地区に於ける近隣・地域マネジメント活動」が第13回まちづくり大賞に輝いた。

住みよいまちと暮らしのデザインをしっかりと地域でマネジメントされ更にモバイル等新しい物にも挑戦されていてお手本のようなまちづくりでした。回を重ねる毎に選考が非常に難しく、どんどんレベルが上がり大賞を取るのには中々大変に感じた。



まちづくり賞選考会風景

19日開催 福祉まちづくりセッション

八木 景子（まちづくり委員会）

テーマは、「ユニバーサルなまちづくりを目指して～大阪・関西万博におけるユニバーサルデザインの計画と見直し～」55名強の参加者でした。

まず、8月23日に部会有志により開催された事前万博会場視察会の報告。次に、大阪士会より万博におけるUD計画と見直しについて、当事者の参加のもとで行われた事前検討会と開幕後の視察での意見と成果等多岐にわたる話をいただいた。大阪府の方からは、万博を契機とした今後の大阪府の取り組みについて伺った。各地の活動報告では、徳島士会でのUD県民会議運営から県・市民への働きかけについて、滋賀士会と京都市会からは、全国バリアフリー情報公開プロジェクト IKKEL の活動についての報告がされた。

UDの使いやすさ分かりやすい情報発信をどのように進めるか、模索が続いていることが多く報告されたセッションでした。

19日開催 景観まちづくりセッション

進藤 学（まちづくり委員会）

大阪の長屋再生の取組の神髄に触れ景観まちづくりについて考える場として様々な立場から長屋再生に関わる4名のパネラーが登壇。

- ①大阪公立大学教授の小池氏から大阪長屋の歴史、特徴、学生を巻き込んだ改修再生、オープンナガヤの実践について、②阿倍野昭和町の老舗不動産会社の小山氏から寺西家長屋の国登録有形文化財登録をきっかけに長屋の魅力に気づき地域の長屋利活用を推進するに至った経緯について、③寺西家長屋所有者・登録文化財所有者の会会長の寺西氏から長屋建替計画を寸前で取止め長屋改修、文化財登録へ進んだ経緯、収益比較においても長屋改修賃貸利用が有利であったこと、④設計事務所の六波羅氏から空堀商店街界隈長屋再生について多くの参加者が集まり中身の濃いセッションに熱心に聞き入っていた。



19日開催 街中（空き家）セッション

田中 英男（まちづくり委員会）

テーマを「ソーシャルデザインにおける空き家活用」として、事例報告とパネルディスカッションが行われた。事例報告は、①島根県の坪倉菜水氏から「まづえ白濁エリア賑わい協議会」による地域再生の活動報告、②兵庫県の奥井正造氏から「空き家の活用に関する研修テキスト」の作成に関わったことを契機とする建築士の養成講座の継続的な取組報告、

③高知県の大平剛司氏から旅館再生による遍路文化の継承と移住支援の実践報告があった。どの取組も建築士だけでは完結できず多方面との連携が不可欠であり、継続的な取組とするためには関係性づくり土壌づくりが大切であることを学んだ。



19日開催 青年委員会セッション

阪口 晴彦（青年委員会）

青年委員会セッションでは、各地域ブロックで行われている地域貢献活動の中から厳選された活動事例について発表されました。子供への建設に対する興味を持ってもらう事業や建築や職人の伝統の紹介、防災や使用材料に自然との共生、解体待ちの建物のインベーションなど広い分野の内容となりました。日頃の活動を発表者や全国の建築士と共有し、各地域や単会に合った事業を持帰り、また実施することで士会活動の活性化の一歩になるのではないかと思います。



活動発表風景

19日開催 女性委員会セッション

有賀 芳子・尾ノ井 有佳子（女性委員会）



ワークショップ後の発表

今回のセッションは、参加者一人ひとりが主体的に考え、自由に意見を交わす場となり、建築士会の魅力を高めるための多くのヒントを得ることができました。特に「認知度向上」については、情報発信と社会との接点づくりが重要であることを再認識しました。また、全体発表では、世代や立場ごとの課題を共有し合うことで、建築士会がより多様で開かれた組織となるための方向性が見えてきたと感じます。最後は、参加者が持ち寄った各地のお菓子をいただきながら、和やかな雰囲気でのセッションを終えることができました。今後は、このセッションで得られたアイデアを地域活動にも活かし、建築士の存在意義を社会に広げる取り組みに積極的に関わっていきたいと思います。

全国大会HP報告へのQRコード



より詳しい全国大会の報告はHPに掲載しています。ご興味のある方はQRコードよりアクセスしてください。

来年ぐんま大会のちらし



来年は群馬で開催されます。皆様、ご参加よろしくお願いします。

19日開催 福祉まちづくりセッション

山本 和代（女性委員会）

福祉まちづくりセッションでは、大阪関西万博におけるユニバーサルデザイン（以下UD）について8月の現地調査結果が報告された後、万博全体のUD計画を「推奨基準を基本とし、困難な場合、最低限規制基準を満たす」に沿って、障がい当事者が参画してガイドライン改定が行われた経緯が報告されました。ユニバーサルツーリズム推進の一環で、障がい当事者が全国の宿泊施設情報を自ら確認できるポータルサイトを構築する活動事例が紹介されました。ガイドラインや建築物をつくった後の検証とその結果共有の重要性について確認できました。



福祉まちづくりセッション風景



山本女性委員長報告紹介

19日開催 式典・懇親会

◎総評 橋本 育子（副会長・全国大会担当）

今年は兵庫県から66名が参加し、全国の建築士との交流や研鑽の機会を持ちました。また、近畿ブロックの一員として、神戸支部・阪神支部には大会運営にも協力いただきました。大交流会にも24名が参加し、日頃はなかなか会えない会員同志の世代を超えた「交流」で大変盛り上がりしました。こうした機会を通して、本会の更なる活性化が進んでゆければと思います。来年は群馬で、是非一緒にしましょう！

◎式典表彰者

【連合会長表彰】

神戸支部 橋本 光展

浜坂支部 古家 学

【伝統的技能者表彰】

畑 勝憲



大交流会写真（群馬士会の方と一緒に）



姫路支部万博見学（20日開催）

令和7年度 第34回 全国女性建築士連絡協議会（やまがた）報告

令和7年7月19日（土）～20日（日）開催

HPに参加者による詳細な報告書があります。是非ご覧ください。

報告書のQRコード



公益社団法人 兵庫県建築士会 提携弁護士相談のご案内

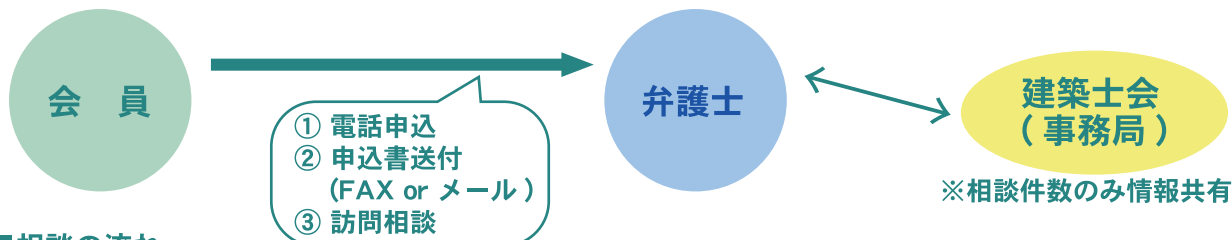
平成 28 年より本会では、会員サポートの一環として、提携弁護士相談を設けています。
会員の皆さまがお気軽に弁護士に相談できる体制を整えておりますので、改めてご案内いたします。

■概要

本会にご協力いただいている、建築紛争に詳しい中川勘太弁護士（多聞法律事務所西元町オフィス）に会員の皆様はトラブルや困りごと等について、いつでもご相談いただけます。

相談は業務に関するものの他、建築以外の広く一般的な法律相談も可能です。

なお、建築士会は相談内容について、一切関与致しません。



■相談の流れ

①電話申込 : 会員は多聞法律事務所 西元町オフィス 中川弁護士に
電話 (078-381-6825) で申し込む。

②申込書送付 : 電話の後に、会員は「申込書」（建築士会 HP の「会員の手引き」
からダウンロード）を弁護士事務所に FAX(078-381-6826)
又はメール (nakagawa-tamon@juno.ocn.ne.jp) 送付する。

③訪問相談 : 弁護士事務所にて相談。相談料は 30 分毎に 5,000 円（税別）とし、弁護士に直接支払う。

※備考：弁護士と兵庫県建築士会は利用状況確認のため、相談件数の情報のみ共有する。



申込書 QR コード

■提携弁護士のご紹介（中川勘太弁護士）



平成 9 年 3 月	京都大学経済学部中退
平成 11 年 4 月	弁護士登録（兵庫県弁護士会）
平成 17 年 3 月～平成 19 年 2 月	財務省近畿財務局へ出向（金融検査官）
平成 24 年度	兵庫県弁護士会副会長
平成 26 年 4 月～現在	神戸市教育委員会 教育法務監理役
平成 26 年 4 月～平成 29 年 3 月	日本司法支援センター兵庫地方事務所 副所長
平成 28 年 4 月～令和 3 年 4 月	神戸大学 法科大学院 法曹実務教授（民事法）
令和 6 年度	兵庫県弁護士会会長

【中川弁護士からのメッセージ】

■いつでも相談できる安心感

会員の皆さんの傍にいる弁護士として、いつでも相談してください。業務に関することだけでなく、建築以外の一般的な法律相談などや悩み事でも気軽に活用してください。

当然の事ながら弁護士には守秘義務がありますので安心してご相談ください。

■早めの相談を

紛争になるまで相談に来られないケースがどうしても多いですが、「こんな段階で弁護士に相談する必要は無い」と思わずに早い段階での相談がトラブル予防になり、結果的にコストも労力も少なくなります。

一方で、建築士の方はトラブルをのみ込んでしまう傾向があり、時として歯止めが効かなくなることがあります。

日頃から注意をして、トラブルが大きくなる前に相談してください。

■契約書のカスタマイズなども

特段のトラブルが無くても、例えば契約書を作成して欲しいなど、契約段階での相談もあります。

最近では従来の契約書では当てはまらない業務なども多く、それに対して、契約書のカスタマイズなどの相談も受けています。
事例としては、特約条項を盛り込んでいないバリアフリー対応についてなどがあります。